



京機会ニュース

No. 29 平成23年(2011年)秋号

京機会事務局 〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL&FAX:075-753-5183 URL:<http://www.keikikai.jp/>
E-mail:jimukyoku@keikikai.jp



芸術と教養の秋!

～京機会秋季大会へのお誘い～

本年度の秋季大会(11月13日開催)は、二大講演会(技術講演会・特別講演会)と共に、後半は、2003年英国ジャズ・ジャーナルの批評家投票で第1位に輝いたジャズピアニスト **MICHIKO "RIKO" OGAWA** によるコンサート「ミニミニジャズヒストリー」をお楽しみいただきます。



今回の大会は日曜開催となりますが、ご遠方よりお越しの方にも十分にお楽しみいただけますよう開始時間ならびに懇親会終了時間を早めております。ご家族の参加も歓迎いたします。多数のご参加をお待ちしております。●秋季大会のご案内は、P.3をご確認下さい。



桂キャンパス移転

～2012年冬の移転が決定!～

1年後の2012年冬に、工学研究科物理系専攻が桂キャンパスに移転します。

京機会の大きな母体である機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻が移転し、京機会事務局も合わせて移転する予定です。●詳しくはP.7をご覧ください。



平成22年度学位授与式

～今年も学部・修士・博士が社会へ～

平成23年3月23・24日に、機械理工学、マイクロエンジニアリング専攻(大学院)・機械システム学コース(学部)学生全員の出席を得て学位授与式を開催するとともに、エネルギー科



学研究科、情報学研究科、エネルギー応用サブコースの学生とともに、23日に記念パーティーを開催しました。会長、専攻長、コース長からの祝辞、賞の授与と卒業記念品の贈呈がありました。



京大フォーミュラプロジェクトKART

～フォーミュラ大会 コスト部門1位!～

平成23年9月7日～11日に第9回フォーミュラ大会が開催され、KARTチームはコスト審査種目別1位をはじめ4賞を受賞するなど素晴らしい成績を収めました。

●大会の詳細は、P.11にて紹介しています。



京機会 年会費納入のお願い

本会の運営は皆様の会費によって支えられています。年会費は主に事務局の維持、ニュースの発行など全会員に関連する目的に使われており、各行事は主にそのつど追加で徴収する参加費で運営されています。これらの点をご理解の上、年会費をお納めいただきたくお願い申し上げます。

なお、各行事参加は当該年度の会費納入を前提とさせていただきます。



会長メッセージ

この度、京機会会長を引継ぎました。昭和44年に修士を修了して三菱重工業(株)長崎造船所に就職後、地元の関西を遠く離れていましたので、京機会はほとんど縁のないものでした。私が京機会とかかわりを持つようになりしたのは本社に転勤して横浜に移ってからでした。関東支部の立ち上げのお手伝いをしました。平成13年に関東、中部、中国・四国支部ができてから関西以外の地区での京機会活動が活性化しました。

退職後、再び長崎に戻ったときに、「九州の会」というのができていました。2年後に支部昇格を認められて5年間支部長を務めました。九州支部は会員数が約180名であり、関東支部の1桁下の人数で、会員数5名以上の企業も3社しかありません。とても他支部と同じような活動はできないので、何か特徴のあることをしようとして始めたのが家族連れでの「九州温泉巡り」で、昨年から「九州離島巡り」を始めました。参加者に「また来たい」と思ってもらえるイベントの企画を支部長の仕事と考えるてきました。先般の種子島・屋久島の行事では5組のご夫妻を含む多数の参加がありました。

同窓会というものは何か、仲良し会でいいのかという議論があります。私は先ずそれでいいと思います。それが始まりでいろいろとつながりの輪が広がって行けばよいと思います。私が京機会に関わるようになりましたのも同じ研究室の仲間とのつながりです。毎日の仕事のつながりと違って直接の利害関係を離れたつながりですが、京機会のおかげで人生がとても豊かになったと確信できます。卒業以来何十年も会っていなくてもすぐに話が通じる同期の横のつながり、職場や研究室の先輩・後輩の縦のつながり、京大機械系教室という同じ学び舎で学んだつながりが、長い人生で一番大切なつながりになると思います。



京機会はこのようにつながりの広がりを目指して行きたいと思います。活動のさらなる活性化、若手会員の参加増加、財政基盤の強化等について会員の皆様のご協力をお願いいたします。

京機会会長 藤川 卓爾(S42)

京機会・京機学生会SMILE 学生と先輩との交流会のお知らせ

日時：平成23年12月27日(火)

**会場：京都大学百周年時計台記念館
国際交流ホール・記念館ホール**

- 本年度は9月16日付で、京機会会員在籍企業約250社宛に案内状を発送しました。
- 上記以外の企業で参加を希望される場合は京機会迄ご連絡下さい。至急に依頼状をお送りします。
- 参加登録締切は、10月28日(金)です。**
なお、会場スペースの関係上、先着100社にて締め切らせていただきます。ご容赦下さい。
- 当日は、懇親会も開催いたします。

学生会員諸君！

学生会員の多数の参加をお待ちしています。

交流会情報は、京機会からのE-mailおよび、物理系校舎ロビーポスターにて確認下さい。



～ 学生と先輩との交流会とは ～

本交流会は、学生が社会における「現実」を知る教育活動の一環として、平成11年より実施しております。

本会は、京機会会員である先輩から、在学生に対し、大学における勉強と実社会の仕事の関係、仕事のやりがい・心構えなどを話していただいております。例年、学生の関心も大変高く、勉学の動機づけや将来の方向付けにも少なからず寄与しております。毎年、約100社の企業にご参加いただき、各社からも好評をいただいております。



「学生と先輩との交流会」は、学生が社会における「現実」を知る教育活動の一つであり、直接的な採用活動の場ではありませんが、広い意味での採用に関する広報活動とも捉えられます。

当初、11月13日の京機会秋季大会・総会と同時開催としておりましたが、本年3月15日改訂の経団連「採用選考に関する企業の倫理憲章」に基づき、交流会日程を12月の開催といたしました。

平成23年度京機会秋季大会・総会開催のご案内



本大会を下記により開催致しますので、ご出席下さいますようご案内申し上げます。ご家族の参加も歓迎いたします。

日時：平成23年11月13日(日) 13:30～19:00

会場：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール、国際交流ホール

行事：

1. 技術講演会 13:30～ 「縮小社会への道」

松久 寛 氏 (S45) 京都大学大学院工学研究科 機械理工学専攻 教授



現代文明は化石燃料に依存しており、エネルギーや環境問題は将来の科学技術の進歩に期待するといわれている。しかし、燃料、資源の使用量の増加、環境の悪化は進行しており、子孫の生存のためにはエネルギーなどの使用量の縮小が必要である。省エネ技術の可能性を論じ、資源使用量の縮小過程および縮小社会の姿を論じる。

2. 京機会総会 14:30～

3. 特別講演会 15:45～ 「企業のCSR(企業の社会的責任)について」

小川 理子 氏 パナソニック(株) 社会文化グループ マネージャー



CSR時代の企業の社会貢献、パナソニックにおける社会貢献の歴史と最近の取り組み分野、グローバルでの活動事例、財団活動、奨学金制度等、企業の社会貢献とは何かについて講演する。なお、小川氏は技術者でもあり、音響機器の研究開発に15年間従事していた。開発したラップ型のスピーカーは、ニューヨーク近代美術館の永久展示品に選定されている。

4. MICHIKO "RIKO" OGAWA ピアノコンサート 16:30～17:15



ジャズの発祥～ニューオーリンズの初期のジャズ、スウィング～ホットなジャズの時代、モダン、クールへの変革、その後の様々な音楽への影響等を解説し、その時代の曲を紹介しながら演奏する。

5. 懇親会 17:30～

会場：京都大学百周年時計台記念館、国際交流ホール

会費：4,000円 学生1,000円 会員ご家族は無料

- 技術講演会・総会・特別講演会・ピアノコンサートは無料でご参加いただけます。
- ご家族の参加も歓迎いたします。ご家族のご参加の場合は、大会参加申込時に、その旨ご回答下さい。
- 自由な服装でお越しください。
- 11月1日(月)までに、同封のはがきもしくは、京機会ホームページ(<http://www.keikikai.jp/>)からの参加申込をお願いします。(ただし、二重受付登録防止のため、出欠回答はどちらか一方をお願いします。)

京都大学ホームカミングデイ - 京機会秋季大会・総会の前日(11月12日)に開催されます -

当日は、百周年時計台記念館にて、記念講演会や記念演奏会なども開催されます。

詳細内容は、同封のチラシをご参照下さい。

【ホームカミングデイ行事の一部ご紹介】

11:00～12:30 記念講演会①

「日本の成長戦略と外交・安全保障」

衆議院議員 前原 誠司氏

「東日本大震災に向き合って」

衆議院議員 福山 哲郎氏

12:40～13:10 京都大学吹奏楽団のコンサート

14:20～15:10 記念講演会②

「文明はいかに変わるべきか」 哲学者 梅原 猛氏

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
開会 時計台記念館 国際交流ホール		10:35～11:00							
記念講演会Ⅰ・Ⅱ 時計台記念館		Ⅰ 11:00～12:30			Ⅱ 14:20～15:10				
記念演奏会 時計台記念館 国際交流ホール			12:40～13:10						
懇親会 時計台記念館 国際交流ホール				13:20～14:10					
総合博物館企画展 総合博物館	9:30～16:30 (入館は16:00まで)								
施設見学ツアー 時計台記念館総合資料館	9:30～12:00								
風景写真・ 館舎化パネル展示 定例展示	9:30～21:00								
清風荘見学	10:00～16:00								
附属図書館見学	10:00～16:00								
尊徳堂見学	10:00～16:00								

開催場所(帯色別)	
百周年記念ホール(時計台記念館)	総合受付(時計台記念館)
国際交流ホール(時計台記念館)	京大サロン(時計台記念館)
総合博物館	各施設

平成23年度京機会春季大会・総会のご報告



今回は、関西支部主催で、総会225名、懇親会209名の会員とご家族の方に参加いただき、盛況な大会となりました。

－ 特別企画 －

午前中に、大阪ガス(株)泉北製造所とガス科学館の見学が催された。会員とご家族で54名の参加があった。



－ 総会 －

総会に先だち、東日本大震災の被災者に黙祷を捧げた後、平田誠計関西前支部長(S43)の開催挨拶により開会した。



久保愛三会長(S41)の挨拶の後、北條正樹代表幹事(S54)より、平成22年度の京機会本部活動が報告された。西脇眞二幹事(S61)より平成22年度会計報告・平成23年度会計計画報告、川口東白監事(S34)の監査報告があり、承認された。なお、平成22年度会計は黒字となったが、過去数年の平均は赤字である。第二世紀事業との共催事業への支出も考慮すると、収入と支出それぞれについて改善する必要があり、その案が示された。続いて、高橋健司関西支部事務局長(S56)、中村吉伸関東支部長(S48)、太田誠一中



部支部長(S47)、薦田哲男中国・四国前支部長(S45)、藤川卓爾九州前支部長(S42)より各支部の活動報告があった。

次に北條代表幹事より役員改選の報告があり、承認の後、藤川卓爾新京機会会長より挨拶があった。最後に、土田幸喜京機会学生会会長(H22)から平成22年度活動報告、藤井拓磨さん(4回生)よりフォーミュラカープロジェクトKARTの活動報告があった。



－ 講演会 －

講演会では、齊藤泰弘京都大学名誉教授より、「レオナルド・ダ・ビンチと科学技術」についての講演があった。近代科学技術の先駆者であり、科学と芸術の才能を併せ持つレオナルドを、現代に生きる我々の傲慢さを捨て我々と同等に扱うことにより、当時の偏見や常識のしぼりの中でレオナルドがどのように科学的な洞察を深め、新しい技術を構想したかを、彼の様々なアイデアと失敗例を交え興味深くお話しいただいた。



－ 大会会場とサロン －

今回の総会、講演会、懇親会の会場になった大阪市中央公会堂は、国の重要文化財に指定され、大阪市民の文化・芸術の活動拠点として親しまれている。ネオ・ルネサンス様式の重厚な建物で、その特別室には、天井・壁面に日本書紀「天地開闢」をモチーフとしたフレスコ画が描かれている。当日はサロンとして、園歌織さんの奏でる美しいバイオリンの音色とともに、優雅なコーヒープレイクを楽しんだ。



－ 懇親会 －

並木宏徳関西支部長(S44)の開催挨拶により開会した。蓮尾昌裕幹事(S61)より、大学のトピックスとして平成24年度の桂キャンパス移転の説明があり、その後、参加者最年長の若林 穰さん(S22)より乾杯のご発声をいただいた。ご家族を含め200名を超える大盛会となり、一同、料理と歓談を楽しんだ。

途中、園歌織さんのバイオリン生演奏も行われ、一同華やかな雰囲気には酔いしれた。バイオリンとピアノの伴奏による琵琶湖周遊歌合唱の後、藤川九州前支部長より長崎にて開催予定の平成24年度春季大会総会についての説明があり、三津田恒夫関西副支部長(S46)の閉会の挨拶により、名残を惜しみながら閉会した。



● 平成24年度春季大会は、4月14日(土)に、九州支部主催で、長崎にて開催予定です。

平成23年度京機会役員 (敬称略)

◎*は新任、正:は正幹事、副:は副幹事の略

【会長】 藤川卓爾*(S42)

【副会長】 松久 寛(S45)

並木宏徳*(S44、関西S)、中村吉伸(S48、関東S)
 太田誠一(S47、中部S)、石崎幸人*(S43、中四国S)
 相馬和夫*(S50、九州S) ◎ Sは支部長の略
 前田和樹*(H23、学生会)

【監事】 中谷征司*(S38)、川辺泰嗣*(S40)

森 雅彦(S60)

【代表幹事】 正:北條正樹(S54)

副:榎木哲夫(S56)

【事務局長】 矢部 寛(S35)

【常任幹事】

会長指名: 熊澤正博(S43)、牧野俊郎(S47)、
 吉田英生(S53)

地区代表幹事:

(関西) 高橋健司*(S56)、(関東) 勝川宏明*(S54)
 (中部) 久米建夫(S55)、(中四国) 松浦正幸*(S61)
 (九州) 石黒淳一*(S61)

大学側幹事:

(関西) 正:中部主敬(S56)、副:杉江俊治(S51)
 (関東) 正:吉田英生(S53)、副:北條正樹(S54)

大学側幹事:

(中部) 正:松原 厚(S60)、副:松野文俊*(S56)

(中四国) 正:琵琶志朗(H2)、副:安達泰治(H2)

(九州) 正:井手亜里(S52)、副:宮崎則幸(S47)

(名簿担当) 中西弘明(H3)

(広報:ニュース) 正:蓮尾昌裕*(S61)

副:富田直秀*(S54)

(広報:HP) 泉井一浩(H8)

(会計) 正:木村健二(S51)、副:西脇眞二*(S61)

(学生会) 岩井 裕*(H5)、塩瀬隆之(H8)、

河野大輔(H17)

(教室代表:機械系) 宮崎則幸*(S47)

(教室代表:エレクトロ) 星出敏彦*(S52)

(教室代表:情報) 杉江俊治(S51)

学生会:荒井未来*(H23)

【通信・情報担当】 山田啓介(H15)

【顧問】 久保愛三*(S41)

【運営委員会】 運営委員長:吉田英生(S53)

川口東白(S34)、中川 哲*(S38)、熊澤正博、

北條正樹、久保愛三、木村健二、谷垣哲也(S56)

松久 寛、榎木 哲夫

【会計オフィサー】 山口美賀(H16)

平成23年度京機会学年評議員 (敬称略)

卒業学年	氏名	E-mail	卒業学年	氏名	E-mail	卒業学年	氏名	E-mail
1945			1966	中嶋 邦彦	1966hyogiin	1988	玉川 雅章	1988hyogiin
1946			1967	藤川 卓爾	1967hyogiin	1989	石谷 善博	1989hyogiin
1947	岸本 雅夫	無	1968	来田 浩毅	1968hyogiin	1990	琵琶 志朗	1990hyogiin
1948	岐美 格	無	1969	小谷 重遠	1969hyogiin	1991	高橋 俊雄	1991hyogiin
1949			1970	各務 嘉郎	1970hyogiin	1992	須山 徹	1992hyogiin
1950	野木 圭三	1950hyogiin	1971	三津田 恒夫	1971hyogiin	1993	岩井 裕	1993hyogiin
1951	吉川 和彌	1951hyogiin	1972	秋山 雅義	1972hyogiin	1994	茨木 創一	1994hyogiin
1952	山本 巖	1952hyogiin	1973	増本 雄治	1973hyogiin	1995	小森 雅晴	1995hyogiin
1953旧	乾 宰人	無	1974	荒川 善久	1974hyogiin	1996	泉井 一浩	1996hyogiin
1953	西田 弘	1953nhyogiin	1975	塩路 昌宏	1975hyogiin	1997	佐野 智一	1997hyogiin
1954	岡崎 順応	1954hyogiin	1976	杉江 俊治	1976hyogiin	1998	浦木 亨弘	1998hyogiin
1955	田中 道七	1955hyogiin	1977	星出 敏彦	1977hyogiin	1999	藤本 亮	1999hyogiin
1956	橋本 昌	1956hyogiin	1978	上原 一浩	1978hyogiin	2000	小田 豊	2000hyogiin
1957	坂戸 瑞根	1957hyogiin	1979	坂口 保彦	1979hyogiin	2001	土井 謙太郎	2001hyogiin
1958	野田 忠吉	1958hyogiin	1980	奥田 寛	1980hyogiin	2002	金田 靖弘	2002hyogiin
1959	柴田 俊忍	1959hyogiin	1981	榎木 哲夫	1981hyogiin	2003	吉富 聡	2003hyogiin
1960	矢部 寛	1960hyogiin	1982	上井 圭一郎	1982hyogiin	2004	安富 亮太	2004hyogiin
1961	井上 恵太	1961hyogiin	1983	永瀬 豊	1983hyogiin	2005	向 朋作朗	2005hyogiin
1962	吉岡 肇	1962hyogiin	1984	横小路 泰義	1984hyogiin	2006	中務 陽介	2006hyogiin
1963	中川 哲	1963hyogiin	1985	田坂 誠均	1985hyogiin	2007	長谷川 寛晃	2007hyogiin
1964	垣野 義昭	1964hyogiin	1986	蓮尾 昌裕	1986hyogiin	2008	鯨岡 絵里	2008hyogiin
1965	内田 正博	1965hyogiin	1987	川上 浩司	1987hyogiin	2009	松本 洋平	2009hyogiin

- 該当メールアドレスへ送信すると、学年評議員の京機会登録メールアドレスに自動転送されます。
- E-mailの@の後には「keikikai.jp」を入れて下さい。
- 本内容はある種の個人情報です。お取り扱いには十分にご留意下さい。
- 上記一覧の「E-mail」項目に「無」と記載されている場合は、現時点では本連絡システムはご利用いただけません。
- 本連絡システムに対するご質問・ご意見ならびに学年評議員に関するご質問は、京機会事務局(TEL:075-753-5183 E-Mail:jimukyoku@keikikai.jp)までお寄せ下さい。

会費納入のお願い

平成23年度会費 3,000 円の納入をお願いします。

同窓会を維持し、また、京大の機械系教室の現役・OBが一体となって、日本のものづくりを支える活動は、会員の皆様から納入される会費を基盤しております。是非、会費納入にご協力下さい。会費ならびに寄付ともに同封の振り込み用紙をご利用下さい。振込用紙は返信はがきと一体となって印刷されております。

会費納入の際には、会費最新状況お知らせ欄に記載されている納入状況を今一度ご確認ください。

●インターネットバンキングもご利用できます。

下記の口座に、振込手数料を除いた金額をお振込下さい。(今後、年会費振込手数料は全て京機会負担といたします(海外送金は除く))

口座名は全て「京都大学機械系工学会」です。

ゼロきゆうきゆう

ゆうちょ銀行 ○九九店(099) 当座預金 0116821

みずほ銀行 出町支店(587) 普通預金 1048630

郵便振替口座 00990-8-116821

●クレジットカードによる会費納入も可能です。

京機会ホームページの「会費納入のお願い」のページから会費納入用紙をダウンロードして、必要事項をご記入のうえ、指定連絡先へFAXでお送り下さい。

●京機会年会費自動引落としのお勧め

各位の振込みの手間を省くため、また、事務局の作業を大幅に減らし経費を削減するため、京機会年会費を自動引落としにさせていただくことを、是非お願い申し上げます。申請用紙は、毎年、京機会ニュース春号に同封しております。また、京機会ホームページの「会費納入のお願い」のページからダウンロードできます。

振込手数料は京機会負担ですので、是非ご利用下さい。

なお、ご利用時は下記注意事項をご確認下さい。

①申請依頼書は下記京機会事務局宛にご郵送下さい。

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学工学研究科 機械系教室 京機会事務局

②今年度分の会費は来年6月に来年度分とまとめて引き落とされます。再来年以降は6月にその年度の会費が引き落とされます。

各種詳細は京機会HP (<http://www.keikikai.jp>) の「会費納入のお願い」のページをご覧ください。

●永年会員登録のお勧め

1974年以前ご卒業(60歳以上)の会員は、永年会費6万円を納入することにより、その後の年会費納入の必要はなく、生涯会員サービスを受けられます。積極的にご登録下さい。(但し、登録に際し既払込会費の返金は致しません。)

ご寄付のお願い

本会では寄付をお願いしております。前号以来、下記に記載いたしました方々からご寄付をいただいております。ご報告申し上げますと共に、厚く御礼申し上げます。引き続き、皆様方には、寄付へのご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成22, 23年度ご寄付者 (H23. 2. 16~9. 9)

故 濱岡 泰夫 様 (1944)

ご冥福をお祈り申し上げます。

岩崎 恵二 様 (1952) 大路 清嗣 様 (1953)

湖崎 一俊 様 (1957) 森 雅彦 様 (1985)

京機会 平成22年度決算ならびに平成23年度予算

単位: 円

科目	概要	H22年度予算	H22年度決算	(差異)	備考	H23年度予算	
収入の部	会費収入	7,400,000	7,949,000	549,000		8,000,000	
	(内訳)						
	一般会費	6,300,000	6,694,000	394,000			
	永年会費	600,000	660,000	60,000			
	学生会費	500,000	595,000	95,000			
	寄付収入	18,000	34,600	16,600		10,000	
	名簿広告収入	0	0	0		0	
	交流会企業参加収入	5,000,000	4,700,000	-300,000		4,800,000	
	行事参加収入	480,000	637,000	157,000		480,000	
	(内訳)						
	交流会懇親会収入		175,000				
	秋季大会懇親会収入		462,000				
	利息	102,000	1,624	-100,376		10,000	
その他	0	10,200	10,200		0		
合計	13,000,000	13,332,424	332,424		13,300,000		
支出の部	通信費	ニュース・大会案内・名簿など	970,000	561,009	-408,991		870,000
	印刷費	ニュース・大会案内・名簿など	1,360,000	1,465,447	105,447		1,460,000
	人件費	職員人件費・臨時アルバイト代	4,500,000	4,432,953	-67,047		4,640,000
	支部活動費		1,513,000	1,528,269	15,269		1,649,000
	(内訳)						
	関西		1,513,000	532,941			
	関東		0	372,654			
	中部		0	243,265			
	中国四国		0	199,481			
	九州		0	179,928			
	大会経費	春季大会・秋季大会	1,120,000	655,881	-464,119		660,000
	交流会費		500,000	1,186,714	686,714		1,000,000
	スマイル活動費		210,000	149,372	-60,628		210,000
	機械系教育補助費	工場見学・修士修了パーティーなど	1,106,000	687,340	-418,660		986,000
	名簿引当金繰入費		355,000	355,000	0		450,000
	旅費	幹事会・運営委員会・支部総会など	608,000	273,660	-334,340		430,000
	会議費	幹事会・運営委員会・評議員会など	250,000	166,509	-83,491		175,000
	会費振込手数料	銀行・郵便局手数料	200,000	214,583	14,583		220,000
	業務諸費	備品消耗品・通信費・事務局管理費など	308,000	596,708	288,708		350,000
	予備費		0	0	0		200,000
その他		0	6,000	6,000		0	
合計		13,000,000	12,279,445	720,555		13,300,000	
当期正味財産増減額			1,052,979				
前期繰越正味財産額			8,723,096				
期末正味財産合計額			9,776,075				

大学の近況報告－工学研究科物理系専攻の桂キャンパス移転

いよいよ来年度後半に、機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻を含む工学研究科物理系専攻が桂キャンパスに移転します。 今回の移転のみならず、京都大学の桂キャンパス自体をご存じでない方も多いと思いますので、簡単に紹介します。

京都大学桂キャンパス整備事業の概要

吉田地区の狭隘化解消のため、1999年に全学の要請により工学研究科が京都市西京区桂坂に移転する新キャンパス構想ができ、同年の補正予算でその建設が認められました。場所は、西京区桂御陵で、ややきつい坂道を登ると、下から順にAクラスター、Bクラスター、Cクラスターが見えてきます。

京都大学 桂キャンパス 全体配置図



2003年、Aクラスターに化学系専攻と電気系専攻が移転し、Bクラスターには桂インテックセンターができました。2004年にはBクラスターに工学研究科事務部が、Cクラスターに建築学専攻が移転しました。さらに2006年、Cクラスターに地球系専攻が移転しました。その後しばらく動きがなかったのですが、2009年に物理系および工学研究科RI施設の桂キャンパス移転についての調査費がつき、2012年の移転に向けて実質上の作業が開始されました。

物理系専攻桂キャンパス移転への道のり

物理系専攻では、先述のように2009年に急遽キャンパス移転への対応を迫られることになりました。移転事業の形態としては、工学研究科では地球系専攻に次ぐPFI (Private Finance Initiative) 事業というもので、建物設計の大枠から建設、さらには建物の運営・管理(2023年度まで)まで事業者が主体となって行います。最大の懸念事項として、経費負担の問題がありました。これまで国立大学(現在の国立大学法人)のキャンパス整備の費用は全額国の負担だったのですが、今回の物理系PFI事業では国と大学がほぼ折半するという新しい形が取られました。実は大学側の経費負担をどうするか十分に詰められておらず、その調整にも多くの時間と労力が割かれることになりました。このようなすったもんだがありながらも、2010年に物理系PFI事業の入札が行われ、大林組を中心とした事業者が決定しました。

建物は2012年9月末の竣工予定で、その年度内に引

越しをすることになります。

桂キャンパス移転後の教育・研究、環境

桂キャンパスへは大学院が移転するため、修士・博士課程の大学院生は講義を含め、桂キャンパスに通うことになります。一方、学部教育はこれまで通り吉田キャンパスで行われますが、卒業研究を行う所属研究室が桂キャンパスにある場合には、学部4年生から桂キャンパスに通うことになります。教員は学部講義のために、週1、2回は吉田キャンパスに通うことになります。桂・吉田間には連絡バスが運行されていますが、所要時間が55分とこれまでにない時間と労力のロスが懸念されます。

桂キャンパスCクラスターは景観等の観点から、地下階が実験室フロア、地上階が講義室・ゼミ室や居室となっています。研究室の垣根を超えた共同実験室もこれまで以上に増え、研究交流の活発化が期待できます。しかし、吉田地区とは異なり、桂キャンパスは歴史が浅いだけでなく、丘陵地にあることにより、生活環境面としては大変不便です。最寄り駅として阪急京都線桂駅とJR桂川駅がありますが、桂キャンパスまでバスでそれぞれ10分、20分かかります。キャンパス内の食堂もBクラスターのみにあるため、特に雨天時にはその利用が不便です。今回の物理系PFI事業では事業者による建物内での収益事業も可能であり、カフェテリアの運営をお願いしました。お立ち寄りいただいた際には皆さんの積極的な利用をお願いします。

桂キャンパス移転後の京機会室

京機会の大きな母体である機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻が移転することに伴い、京機会事務局も併せて桂キャンパスに移転する予定です。場所は京都市市街を見渡せる見晴らしが良い最上階となっています。一方、吉田キャンパスでは工学部の集約化に伴って教員室が職員室形式となることもあり、京機会占有の部屋が確保できるかは白紙の状態です。同窓生にとって愛着ある吉田キャンパスと新天地の桂キャンパスをどう有機的に連携させるかが、今後の課題の1つになると思います。

Cクラスター鳥瞰図(完成時予想図)



物理系移転WGチーフ・機械理工学専攻

蓮尾昌裕(S61)



**4月17日開催関西支部主催京機会春季大会は
盛會に終了しました。様子はP.4をご参照下さい。**

■ 産学懇話会

第34回：平成23年9月17日(土) 13:30～
場所：京都大学工学部物理系校舎 2F 216室
「低炭素社会実現への大阪ガスの取組み」
大阪ガス(株) 深野行義氏(S60)
「環境革新企業を目指した新生パナソニックグループの
取組み」パナソニック(株) 野村淳二氏(S46、電気卒)
「電力システムと直流送電」東海職業能力開発大学校
校長 大澤靖治氏(S44、電気卒)

■ MOT研究会(京機サロン)

第42回：平成23年7月30日(土)
場所：国立文楽劇場 参加者：文楽鑑賞28名、懇親会
21名(含：ご家族ご友人)
演目は豊臣秀吉の出世物語を脚色した「絵本太功
記」のうち、本能寺の変前後の明智光秀の動きを追った
物語です。初演当時に大受して、落ち目であった文楽
の人気を回復させました。



第43回：平成23年9月8日(木) 場所：大阪弥生会館
講演：「日本の自動車のあり方、業界の将来」
(有)ジュネコ代表取締役 西川 淳氏(S63)

■ 若手交流会

第7回 平成23年2月26日(土)
場所：ユニバーサルスタジオジャパン
内容：アトラクション、ラウンジ体験、懇親会
参加者：25名(会員12名、家族5名、友人8名)
第8回 平成23年4月17日(日)
場所：大阪中ノ島公会堂(京機会春季大会と共催)
第9回 平成23年6月11日(土)
場所：中ノ島公園 大阪城公園
内容：大阪城公園散策と昼食会
参加者：13名(会員9名、家族3名、友人1名)



■ 異業種交流会

第30回：平成23年3月4日(金)15:00～
場所：(株) 島津製作所本社
見学：メディカルセンターおよび医用新工場
講演：「最近の医用画像診断機器に関するトピックス
紹介」森谷英之氏
参加者：学生会SMILEとの共催。計49名(内学生26名)

第31回 異業種交流会ご案内

日時：平成23年10月28日(金) 14:00～19:00

場所：住友金属工業(株)
交通産機品カンパニー 製鋼所(大阪市此花区)

●詳細はホームページをご覧ください。

■ KMC京機会MOTセンター<ご報告>

平成23年7月9日、平田誠計新会長の就任が承認され
ました。7月30日、第1回運営委員会で、KMC設立当初
より進めている「MOTに関する研究」の一つとして、「イノ
ベーション研究会(仮称)」を立ち上げることを決定しま
した。この研究会は分科会での「企業でイノベーション
が進まない」、「新しいテーマが出てこない」などの意見
に対し提案されたものです。

■ 京機九日会

偶数月9日(除12月)に中央電気倶楽部(大阪・堂島)
で、11時～14時に開催しています。
平成23年はS40卒組が幹事を担当しました。
2月9日 天野 到氏(S40)、4月9日 牧川安之氏(S40)、
6月6日 塩瀬隆之氏(H8)、8月9日 八尾正夫氏(S40)
に講演いただきました。
10月11日は、「国鉄・思い出話」と題する濱野清士氏
(S40)のご講演の後、恒例の懇親会を開催しました。

■ 京機・京都の会

京都近辺の京機会会員交流会を3、7、9、12月の第一
土曜日、ウエスティン都ホテル(三条、蹴上)で11時から
開催しています。毎回40分程度の話題提供の後、会
食・懇談の楽しい一時を過ごしています。
3月5日 熊本博光氏(S44)、7月2日 片井 修氏(S44)
9月3日 北村隆行氏(S53) に講演いただきました。
次回は12月3日(土)に開催いたします。参加希望者
は、幹事の垣野義昭()または、池
内健()迄ご連絡下さい。

■ ここのえ会

結婚活動支援組織「ここのえ会」が紹介活動を
スタートさせています。皆さんの積極的な入会を
お待ちしております。詳しくは京機会ホームペー
ジの関西支部「ここのえ会」のサイトをご覧下
さい。

平成24年 関西支部総会・新年会のご案内

**平成24年1月7日(土)に、ホテルグランヴィア
大阪で開催します。関西支部会員は同封の案内
をご確認下さい。詳細は、京機会HPにも掲載し
ています。**



写真同好会第3回撮影会の報告

日時:平成23年4月29日(金) 15:30～
場所:山手線駒込 参加人数:7名

お天気もまずまずで、総勢7名の少人数でしたが、写真中心、散策中心、それぞれ、一緒にわいわいと一日楽しく過ごしました。20代の若手の方や中学生のお嬢さんも参加してくれました。今回は、都内名園めぐりを企画し、山手線駒込に集合して、旧古河庭園→六義園→小石川後樂園を巡り、夕刻には神楽坂で懇親会を開きました。次回(第4回)は、10月16日に小江戸と呼ばれている埼玉県川越市の祭りに出かけます。初めての方も気楽にご参加ください。詳細はHPをご覧ください。



MOT(技術経営)セミナーの報告

日時:平成23年6月11日(木) 15:30～19:00
場所:日立金属高輪和彊館(品川) 参加人数:50名
講師:シミック(株) 会長兼社長 中村和男氏
講演:「起業シーズをどう育てるか」

京都大学産官学連携本部と共催でMOTセミナーを開催しています。第1回目となる本セミナーでは、医薬品開発受託事業などで起業をされた中村社長に、国際的な開発プロジェクトの運営や、大学との共同研究などについて、実体験を交えてご講演いただきました。

機械系以外の京大OBの方も参加されており、質疑では様々な視点からの質問が寄せられました。

冬期に第2回のMOTセミナーを開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

学生工場見学会の報告

恒例の学生工場見学会が9月28日、29日の両日実施され、28日には関東在住OBの皆様との懇親会を開きました。今年は震災の影響もあり、一時は関東地方での工場見学会開催が危ぶまれましたが、関係各社様の絶大なる御協力の下無事開催することができました。

この詳細は春号で報告いたします。

平成23年度 関東支部総会及び新年会のご案内

平成23年度関東支部総会・新年会は、以下の日程で開催いたします。積極的なご参加をお願いいたします。詳細は、京機会HPに掲載しております

日時:平成24年1月21日(土) 12:30～

場所:日立金属高輪和彊館(品川駅から徒歩10分)

中部支部からのお知らせと報告

太田誠一支部長(S47)体制2年目の本年も、昨年に続き「会員の参加率向上」「若手会員、学生との接点拡大」を目標に活動して参りますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いたします。

中部支部総会の報告

日時:平成23年4月9日(土) 15:30～
場所:(株)デンソー Dスクエア 参加人数:64名
講演:「民間航空機用ジェットエンジンの動向」

梶村 努氏(H3) 三菱重工業(株)

「技術者の復権」松久 寛氏(S45) 京都大学

梶村さんからは、ジェットエンジンの最先端技術の状況解説を、松久さんからはエンジニアへの強力なエールをいただきました。



技術交流会の報告

日時:平成23年7月7日(木) 14:00～
場所:炭生館(愛知県田原市) 参加人数:18名
講演:「PFI手法と民間ノウハウの融合について」
渡邊 隆氏 グリーンサイトジャパン(株)

PFI(Private Finance Initiative)手法で運営している田原リサイクルセンター「炭生館」を見学しました。これまでのゴミ処理施設のイメージを払拭した外観、外部に臭気を漏らさない構造、ゴミの資源化など、自然環境と調和して共存できる持続可能な社会経済システムの実現を目指している事が理解できました。

講演後の質疑応答や懇親会での議論から参加者の環境意識の高さを再認識しました。



学生工場見学会併設技術交流会の報告

恒例の学生工場見学会が9月6日、7日の両日実施され、これに合わせOBと学生との技術交流会を開催しました。この詳細は春号で報告いたします。

平成24年 中部支部総会のご案内

来春4月に開催予定です。詳細は次号(2012春号)でご紹介いたします。皆様、ご予約の程よろしくお願いたします。



学生会員の工場見学

平成23年11月24日(木)～25日(金)に、学生会員(学部生～博士)による中国地方の工場見学が予定されています。三井造船(株)、JFEスチール(株)、三菱重工業(株)、マツダ(株)を見学する予定です。

これまで他の支部では実施されていましたが、中国・四国支部では初めての実施となります。

異業種交流会および支部役員連絡会のご案内

本年11月下旬頃、異業種交流会および支部役員連絡会を開催いたします。

詳細はEメールおよび本部ホームページにてご案内しておりますので、ご出席くださいますようお願いいたします。



昨年の異業種交流会の様子

平成24年 中国・四国支部総会のご案内

平成24年2月4日(土)に、支部総会および異業種交流会を開催する予定です。

詳細は追ってご連絡します。万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願いいたします。

九州支部からのお知らせと報告

九州支部H23<春の行事>の報告

平成23年4月23日(土)～24日(日)に、鹿児島県種子島にて京機会九州支部の平成23年度春の行事を開催しました。ご夫妻の参加も5組あり、総勢29名となりました。

1日目は、種子島鉄砲館で、1543年(天文12年)に伝来した鉄砲の歴史を学び、干潮時しか入れない海蝕洞窟千座の岩屋を見て、門倉亭南荘で懇親会を開催しました。

2日目は、種子島宇宙センターを訪問し、H-IIロケット実機や大型ロケット発射場などを見学しました。JAXA所属の本会会員毛利和生さん(H3)、藤井剛さん(H18)に大変お世話になりました。

オプションの屋久島観光には20名が参加し、縄文杉トレッキング、屋久島の滝巡り、ヤクスギランド散策や西部林道ドライブ、白谷雲水峡トレッキングをしました。



九州支部 平成23年<秋の行事>のご案内

日時：平成23年11月26日(土)～27日(日)

場所：三菱重工阿蘇高原クラブ

〒869-1411 熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陰5-35

TEL:0967-67-3100

参加費：宿泊費・懇親会費含めて約1万円/人

<1日目行事：26日>

第一部：リカレント講演会 15:00～17:00 2F研修室

九州支部2回目の「リカレント講演会」を実施します。

<テーマ>

「エネルギーからみた現代文明の持続＝縮小」

<講師> 松久 寛教授(大学院機械理工学専攻)

第二部：総会 17:00～17:45 2F研修室

第三部：懇親会 18:00～20:00 2F宴会場

<2日目行事：27日>

第四部：<オプション> 北、東、南3方向の観光コース

(1)北方向：阿蘇中岳登山 → 九州電力八丁原地熱発電所 → 九重大吊橋 → 長崎、福岡方面

(2)東方向：高千穂峡 → 高千穂神社 → 天岩戸神社 → 国見ヶ丘 → 熊本空港、長崎、福岡方面

(3)南方向：阿蘇白川水源 → 幣立神宮 → ヤマメの里「えのはの家」 → 通潤橋 → 熊本空港、長崎、福岡方面

参加申し込み方法：

京機会HP、同封返信葉書でのご登録か、または下記幹事宛にメールにてお申し込み願います。

幹事：

京機会九州支部 事務局長 石黒 淳一 (S61)

E-Mail：

京機会学生会SMILEからのお知らせと報告

インターンシップ祭の報告

日時:平成23年5月27日 参加学生:約80名

昨年度に引き続き、今年度も学生にインターンシップの内容を掴んでもらうためにインターンシップを経験した方の話を聞ける場として上記イベントを開催しました。

パネルディスカッションと個別質問の2段階編成で進行し、パネルディスカッションにおいては、JFE、三菱電機、大阪ガス、BNPパリバ銀行でインターンシップをされた方に経験談をお話いただきました。その広い業種や、具体的な話を聞いたことに対して、学生事後アンケートから、高い満足度が得られたことが伺えました。しかし、個別質問時には多くの学生が帰ってしまい、この件に関して来年度はもっと多くの学生の意識を高められるような企画になるようフィードバックする予定です。



講演会・学生会総会の報告

日時:平成23年7月5日 参加学生:約60名

今年度の学生会総会に先立って、「エンジニアとして活躍するためには学生の間に何を学べばいいのか」というテーマで(株)島津製作所顧問の川辺泰嗣様(S40)に講演をして頂きました。実際にエンジニアとして最先端技術に携わり続けている方の生の声を聴く貴重な機会であり、参加学生にとって価値のある時間となりました。

心理学セミナー

日時:平成23年7月6日 参加学生:13名

今年度新しく発足したイベントとして、工学という男性主体社会における女性のあり方を男女共に学ぶという目的で、教育学研究科教授の桑原知子先生を講師として迎え、心理学に関する少人数セミナーを開催しました。少人数ならではの實習形式で人間関係について学び、参加した学生は非常に高い満足度を得ました。



講演会

心理学セミナー

学生KARTからのお知らせと報告

「2ヵ年計画」。今年度はその2年目という事で、総合優勝を目指し、1年間活動を行ってきました。今回は大会での様子をご報告したいと思います。

初日の技術車検では、軽微な修正を施すのみで通過を達成し、その他の車検項目も難なく通過しました。

2日目からはいよいよ大会競技が本格的に始まりました。なかでも、コスト審査では資料の正確性が認められ、KART史上初となる種目別1位を獲得。デザイン審査でも、ギアドライブのユニーク性や、車両開発プロセスの的確さが高い評価を得て、3位を獲得することができました。

動的イベントが始まる3日目。まずは、森・小川の3回生コンビがアクセラレーション・スキッドパッドに挑み、緊張感からか本来の走りとはいかないまでも、無難にタイムを残しました。



午後からのオートクロスでは武田・藤井の4回生コンビが、車両セッティングが合わない中、精一杯のタイムを叩き出しました。4日目、大会のハイライトともいえるエンデュランスに挑みました。1走目の武田がラップタイムを更新しながら好走を続けるなか、突如としてエンジンが停止。再スタートを試みますが、セルモータの音だけが空しく

会場に響きます。オフィシャルが頭上に×印を掲げ、その瞬間、私たちの夢はついに叶いました。

エンデュランスを完走してさえいれば総合3位以上が堅かっただけに、メンバーの無念さは筆舌に尽くしがたいものがあります。同時に、総合優勝を目標に掲げ、多くの方々のご支援を頂いてきただけに、ご期待下さった皆様には申し訳ない気持ちでいっぱいです。

「2年間で総合優勝を勝ち取る」という「2ヵ年計画」は、結果として目標を達成することが出来ませんでした。コスト賞1位やデザイン賞3位など、計4つの賞を頂くことができました。これも、どんな時でも変わらず温かいご声援とご支援を続けて下さった皆様のおかげです。

来年度以降のKARTの挑戦に、引き続きご期待下さいませよう、心よりお願い申し上げます。

コスト賞 1位
デザイン賞 3位
CAE特別賞 3位
最軽量化賞

京都大学フォーミュラプロジェクトKART

2011年度プロジェクトリーダー 藤井拓磨

HP:<http://www.formula-kart.org>

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム実施報告

現在、京都大学工学研究科機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻の機械系3専攻では、日本学術振興会 組織的な若手研究者等海外派遣プログラムの採択を受け、「国際的横断型アカデミア人材育成のための機械系工学教育研究プログラム」(平成22年1月29日～平成25年1月28日)を実施している。

これは、我が国の若手研究者等(学部学生、大学院生、ポスドク、助手、助教、講師及びこれらに相当する職の者)を対象に、海外の研究機関や研究対象地域において研究を行う機会を組織的に提供する事業に対して、渡航費・滞在費の全額が助成されるもので、機械系3専攻では3年間で85名の若手研究者を派遣する計画で事業を進めている。

研究領域の細分化と深化が進む機械系工学では、多面的で広い視野を有し、国際的な舞台での活発な領域間対話と緊密な情報交換によって、新しい研究分野を開拓していける人材の養成が急務である。本事業では、機械系工学における既存の学術分野を横断する境界領域において真理を探究でき、新しい研究分野において研究チームを組織してリードできる次世代教育研究者の育成を目指している。

これまで機械系3専攻からは、計45名の派遣を行ってきた(図1)。本事業の趣旨は、申請者が海外の著名研究機関で、数週間から半年(最大は12ヶ月)にわたる滞在中を通じて「研究型インターンシップ」、すなわち先方の受け入れ機関との間で事前に研究テーマを打ち合わせ、派遣期間中にその研究テーマを遂行し、その成果を自身の学位論文の一部として、あるいは今後の国際共同研究への糸口として活用してもらうことにある。滞在先では研究の成果面のみならず、異文化・異分野研究者との交流を通して、これまで気づかなかった自身の能力を発見し、新しい研究分野を開拓していくための、俯瞰力、構想力、行動力、創造力の必要性を再認識させることに重きを置いている。いずれの派遣生も、異国の地で自らの生活を立ち上げるための苦労を経験しながらも確かな手応えも感じ取ってきており、帰国後の報告会の場では、「何を学べたか」もさることながら「受け入れて貰った組織に対して自分はどういう貢献ができるのか」について考えさせられたという感想を述べる派遣生も多い。

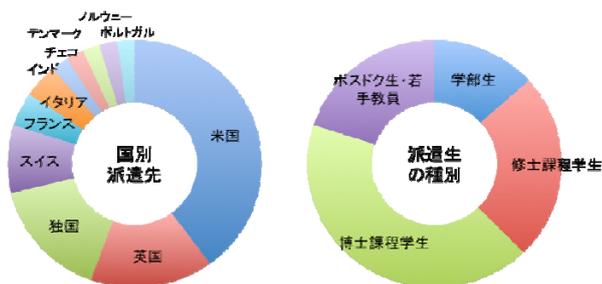


図1: 2011年8月現在の派遣生(45名)の国別派遣先と派遣生の種別分布

以上は大学院生以上の派遣についてであるが、今年度からは学部生の派遣も開始している。学部生の場合には、上述のような研究型インターンシップを学生が主体的に進めることは困難なことから、米国カリフォルニア大学デービス校(UC Davis)での実習型夏季短期留学プログラム(8月13日～9月5日に実施)に、機械システム学コース・宇宙基礎工学コースの学部生(3回生と4回生)6名が本事業からの助成を受けて参加した。



米国カリフォルニア大学デービス校での実習型夏季短期留学プログラム

このプログラムは、UC Davis校と京都大学との共同企画による初のプログラムで、特に京大側からの申し入れを受けて、大学を出た課外活動として現地の企業や研究所、フィールドに出かけて説明を受ける機会としてのSite Visitが設けられた。参加学生は、質問による情報収集を重ねることで、さまざまな科学技術分野における調査内容をまとめ、発表用資料を作成し、最後はグループ毎にプレゼンテーションを行う発表会で締めくくられる。基本的に一部の講義を除いては小人数のグループ単位で活動するように企画されており、独りでは何もできない環境に我が身を置いてみることで、学生間の能動的な相互交渉を引き出し、誰かに頼るばかりではすまされない、自分にできることは何なのか、そういったグループへの帰属意識や共同作業をする際の分業の大切さを実感する機会になった。著者も視察に訪れたが、学生諸君はまさに24時間英語漬けの3週間で、朝から夜にまで及ぶ講義のあと、帰宅してもホストファミリーとの受け答えが待っており、さらにホームワークや学んだことの復習と調べものに、寝る間も惜しんでの日々が続いていた。Site Visitの受け入れ先の多くが、UC Davisの卒業生であり、このような大学教育への協力を依頼すれば、誰もが我が母校からの依頼であればと名誉に思い、無理を承知で引き受けてくれるとの話も聞いた。人材育成が大学においてのみならず、地域として、社会として進めていかねばならないという考え方が隔々に浸透していることを強く感じさせられた。

今後も、学部生、大学院生、若手教員、それぞれのレベルにあった派遣プログラムを継続して提供し続け、機械系3専攻の国際化の促進に寄与できればと考えている。京機会会員各位にも、人材育成に向けての様々な側面からのご協力とご支援を賜るべく、ここに本紙面を借りてお願い申し上げる次第である。

実施責任者・機械理工学専攻 榎木 哲夫(S56)

学生（博士後期課程）からのメッセージ

私は、現在博士後期課程3回生であり今は主に博士論文の執筆に勤しんでいる。ポストク難民という言葉が代表するように、博士学位取得者の受け入れ先の不足が大きな問題である。しかし、京機会会員のほとんどは学部もしくは修士課程を卒業して就職しており、博士を目指す学生がどのような生活を送っているかはあまりご存知ないと思う。私は2009年に「大学院教育改革支援プログラム」インテック・フュージョン型大学院工学教育の一環として、博士後期課程の有志9名とともに工学研究科の博士後期課程学生83名に対し、生活、経済、教育(特に英語教育)、研究、進路に関する意識調査アンケートを行った。その結果の概要とともに、博士を目指す学生の一例として、私の日常について紹介したいと思う。

まず、生活面についてのアンケートの結果、約8割の学生が私生活が充実しないことによる研究意欲の低下を経験していた。特に桂キャンパス在籍の学生においては、立地条件が悪いことにより形成された閉鎖的な空間が、意欲の低下を引き起こしていると思われる。機械系専攻も来年度には桂キャンパス移転を予定しており、対応が望まれる。また、吉田、桂キャンパスを問わず共通の希望として、人的交流を増やすべきであるという意見があった。

経済面については、回答者の6割以上が政府等による返済不要の給付奨学金を受けることができていない。貸与奨学金を受けている学生のうち、約9割が返済の目途がなく、約4割が返済に対して不安を抱えていることが明らかになった。全体として、月々平均12.5万円程度の給付補助金が望まれている。

教育面については、国際的な舞台での発表も多くなり、論文やプレゼンでの英語能力の向上を求める声が多い。系統的な教育プログラム等の対応が大学側に期待されている。一方、学生自らの努力に負うところが大きいながらも、国際舞台で活躍できる博士を輩出していることも事実であり、研究の深さだけではない修士課程修了者との差別化も達成されている。

研究室の設備・環境についてはおおむね満足しているが、指導教員とのコミュニケーション、特に議論する時間が不足していると感じているようだ。

進路については約8割の学生が不安に感じている。6割以上の学生が、研究テーマの自由度や専門性を活かせる大学や独立行政法人の教員・研究員を希望している一方、民間企業の研究職も25%強の学生が希望している。ともに、学生にとっては、求人や採用基準の情報が不十分であり、不安を一層広げている。民間企業の博士採用枠が少ないので、大学側は就職情報を提供するだけでなく、採用枠その

ものを広げるような働きかけを企業に対して行って欲しいとの意見もあった。

では、博士後期課程は困難と不安に苛まれた修行の時かといえば、そうでもない。次に、私の博士後期課程生活を紹介しよう。

私の研究分野は実験系であり、「世界で誰も測ったことのないものをいかに計測するか」が究極の目標である。研究の流れとしては、まず実験の企画・計画があり、そのあと計測装置の開発、実験、解析と続く。私の場合、外部の研究施設で実験を行っている都合上、このサイクルはおおよそ一年間である。毎月開催される研究室内の報告会、年2回開かれる国内学会、おおよそ年1回のペースで参加する国際学会も研究を進めるにあたってのペースメーカーとなっている。また、実験結果の解析に目処がついてくると、それらをまとめた論文を書くことで頭の中を整理する。

順調に計測・解析が進み、何か一つの物理現象の解明に手が届きそうになると、それを発展させる実験を計画し始める。研究の計画立案が個人的には最も楽しい作業で、「あの計測とあの解析を組み合わせれば、あれが測れるんじゃないか」などを、解析の合間や、寝る前などの時間に妄想する。

ただし、計測装置を立ち上げるには、多くの場合それなりに費用がかかる。具体的な計画が固まってきた年度末ごろ、研究室の予算を握っている担当教員に次年度の計画を提案する。日頃から研究室内の報告会などで、自分のグループの進捗状況や、最近話題のトピックなどをアピールしておく、太っ腹な決断をしてくれることが多い。

私は現在のこのような研究生活について非常に満足している。担当教員はよく指導をしてくれるし、上では述べていないが昨年度は3ヶ月間アメリカで勉強させてもらうこともできた。ただし、私の場合も上述のアンケート結果と同様、経済的・社会的には修士課程卒業後に就職した同期生などと比べると恵まれていない。これまで政府などからの経済的な援助を受けることが出来ず、貸与奨学金により生活している。博士取得者の受け入れ先も少なく、将来の生活基盤が確立しているとも言いがたい。そういった経済的に自立していない事情から、社会からは半人前扱いをされる。また、博士後期課程学生という立場や博士という学位を知らないという人に出会うことも多い。日本ではまず、博士やそれを目指す学生の現状が社会に認知されることが、その処遇改善のために必要でないかと思う。

藤井恵介:H19年学部卒
蓮尾研博士後期課程在籍中



教員の異動

昇任

◆井上康博准教授：H10北大・理・物理卒、H12東大大学院工学系研究科・修士課程修了、H15同博士課程修了、H15-18JSPS特別研究員PD、H18-19理化学研究所研究員、H19-23本学機械理工学専攻助教、H23.4.1本学再生医科学研究所准教授および本学マイクロエンジニアリング専攻准教授。生き物らしさを表す新しい数理モデルの研究と再生医工学への展開に従事。長野県出身。



◆東 俊一准教授：H11広大・工・電気卒、H13東工大・大学院・理工学研究科・修士課程修了、H16同大学院・情報理工学研究科・博士後期課程修了、H17.9本学・大学院・情報学研究科・システム科学専攻・助教。H23.6.15同准教授。ハイブリッド制御、システムバイオロジに関する研究に従事。



新任

◆西川雅章准教授：H20東大・航空宇宙工学専攻・博士後期課程修了、H23.4.1本学機械理工学専攻准教授。繊維強化複合材料および機能性高分子複合材料の材料メカニクスを力学モデルにより解明



し、先端材料の新しい設計方法へ応用する研究に従事。兵庫県出身。

◆根 和幸助教：H17電気通信大学・電気通信学・知能機械工卒、H19同大学院電気通信学研究科・修士課程修了、H22京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了、H23.4.1本学機械理工学専攻助教。移動ロボットの制御に関する研究に従事。秋田県出身。



転出・異動

◆琵琶志朗教授：H23.4.1 本学航空宇宙工学専攻機能構造力学分野へ異動

◆宇津野秀夫准教授：H23.4.1 関西大学システム理工学部機械工学科の教授に昇任

◆水山 元講師：H23.4.1 青山学院大学理工学部経営システム工学科の准教授に昇任

◆杉山文子助教：H23.4.1 本学航空宇宙工学専攻機能構造力学分野へ異動

◆杉山正明准教授：H23.5.1 本学原子炉実験所粒子線基礎物性研究部門粒子線物性学研究分野の教授に昇任

「北海道の会（仮称）」発足のご案内

関西、関東、中部、中国・四国、九州支部に続き、「北海道の会」が、浅井伸宏さん(S58)、加藤博之さん(S62)のお世話により、発足の運びとなりました。

会員数が少ないため、支部の扱いにはなりません、同地区在住



の会員内での親睦を深めるための重要な役割を果たせればと思います。

最小規模の九州支部行事には、他支部会員の方も多数ご参加くださっております。北海道の会も会員を挙げて盛り上げていただければと思います。

詳細については、次号の京機会ニュース春号にてご紹介できるかと思っております。どうぞお楽しみに！

学年評議員各位へ

～ 学年同窓会開催のススメ ～

京機会の目的は会員の親睦と発展で、その原点は各卒業年度の同窓会活動にあります。

学年同窓会の積極的な開催をお願いするため、少し形骸化の傾向も見られた評議員制度を、近年、学年評議員制度に改めました。

京機会本部も、学年同窓会の積極的開催のお手伝いをいたします。ご要望がございましたら、遠慮なく京機会事務局までご連絡下さい。



jimukyoku@keikikai.jp, (Tel 075-753-5183)

運営委員会委員長 吉田英生(S53)

京機会代表幹事 北條正樹(S54)

●学年評議員は、P.5の一覧にてご確認ください

評議員会のお知らせ

評議員各位には、今後の京機会活動についてのご審議・ご意見をいただきたく、是非ともご出席の程よろしくお願い申し上げます。

日時：平成23年11月13日(日)

11:30 ~ 13:10

会場：京都大学工学部物理系校舎

216室

●評議員会は京機会幹事会との合同会議とさせていただきます。

●評議員会のご案内は、別途評議員にご連絡いたします。

会員のページ

50年会(昭25年卒)2010年例会

日時:平成23年5月16日(月)

場所:(社)大阪倶楽部 出席者:9名

当初10名出席予定が1名体調不良で欠席。昨夏前幹事小澤兄の提案で卒業60周年記念文集を昨秋発刊し一区切り付いた所で年1回の例会を開催。出席した9名中健常者は3名に過ぎず、あとの6名は夫々に闘病で苦勞しており、1人々々がその苦勞話の近況報告となるも、体調を取り戻した何人かの諸兄とは久しぶりの再会を喜び合い、又来年5月21日(月)の平成24年度例会で会うことが出来るようお互いの健康を祈り、名残りを惜しみつつ懇親会食会を終わりました。来年の例会では下間頼一兄が、昨秋参加した「アラビア湾クルーズの報告ー高楼都市ドバイとアラビアンナイトの mascarot を訪ねてー」と題するスピーチとパワーポイント上映を予定しています。50年会各位の奮っての御参加を切に願っています。 当番幹事:福井紀生・合田英之 (合田記)



昭和38年卒同期会

平成23年5月15～16日に東京で開催し24名が集まった。浜離宮庭園の散策と茶屋で抹茶を楽しみ、日の出棧橋から東京湾クルーズに出て変貌著しいお台場や羽田空港の新設の第4滑走路に離着陸する飛行機を眺め、ホテル「ゆうぼうと」で宴会となった。2年振りの再会で近況報告と東日本大震災の直後で地震・津波・原発事故と深夜まで大いに話が弾んだ。

翌日は、国会議事堂と日本銀行を見学、そして中川君の尽力で大林組のご協力を得て建設中の高さ634mのスカイツリーを見学し最新の建築技術の説明を聞いた。(細見記)



洛友会(昭29年卒)関西地区会

日時:平成23年5月9日12時～14時

場所:(社)大阪倶楽部 出席者:15名

洛友会は毎年5月第2月曜日に大阪倶楽部で関西地区の同期会を開催しています。今年は15名が集まりました。昨年は親授式に出席するため欠席だった嶋本会員ですが、本年はあらためて同氏を迎えて受賞のお祝いをしました。限られた時間のため、詳しくは聞けなかったのですが、それでも叙勲について賞牌(勲章)制度の歴史と勲章の種類など、そして親授式の様子も聞きました。また受けられた瑞宝中綬章の実物を見せてもらいました。その後は毎年の通りそれぞれの近況を語り合いました。話題に出てきたこともあって絵画・書・写真などの趣味の作品を持ち寄って作品展を開こうということになりました。11月15日から一週間、西宮市立図書館の市民ギャラリーにて開催する予定で、既に9名の出展が見込まれています。これからさらに多数の参加を呼び掛けたいと思っています。(岡崎記)



京機会関東在住 昭和39年卒業同期会

平成23年4月5日開催の同期会では、ご参加いただきありがとうございました。おかげさまで一年ぶりの顔合わせでしたが、回を重ねるごとに学生時代の友達付き合いの感覚に近い親しみのある言葉使いや、地震、津波、原発事故などの時事的な話題について、日頃のメールでの情報交換などもあって、会話にも熱が入り楽しく有意義な会になりましたことを幹事といたしまして厚く感謝いたします。

宴会終了後も、晴天に恵まれ桜の咲き始めた浅草・隅田川界隈で634mのスカイツリーを、一応メカニカルエンジニアとして間近に見学できましたのも、思い出深い同期会になりましたことと満足しています。

(浜本記)



昭和40年卒(4040会)同窓会

4040会は毎年、そして各地で開催しています。今年は5月21日(土)に奈良の奈良ホテルで開催いたしました。奈良ホテルは由緒のあるホテルで西の迎賓館としての位置付けで建設されたところです。天皇陛下が奈良を訪問される時にはいつも宿泊されるホテルです。また奈良ホテルは、横山大観や上村松園他の名画も鑑賞でき、世界の有名人が多数宿泊した所でアインシュタインが弾いたピアノも展示されています。今回は34名の卒業生と6名の奥様方合わせて40名の参加で開催いたしました。4040会と共に奈良の春の名所旧跡を訪ねることを兼ねて開催しました。幹事:牧川、能勢



昭和42年卒同窓会

平成23年4月17日(日)、大阪中ノ島中央公会堂で開催された京機会春季総会・懇親会の二次会としてS42年卒同期会を開催しました。関西在住者を中心に9名が集まりました。



◆出席者:浦川、川合(幹事)、榊原、城下、側島、中野(幹事)、藤川、藤田、吉野

平成23年5月13日(金)、北品川の「金時」にて恒例の関東地区同期会を開催しました。関東在住者を中心に10名が集まりました。東日本大震災被災地の仙台からも清野氏が出席しました。大震災・大津波と原発事故が話題になり、幕末、敗戦に続く第三の国難にシニア世代はいかに対処すべきかを議論しました。また、出席者のうち3名が参加した4月の九州支部行事の種子島宇宙センターや屋久島縄文杉の思い出話も披露されました。



◆出席者:岡、清野、長崎(幹事)、檜村、林、藤川、前野、間瀬、元木、若園

晦日会(河本研究室同窓会)

平成23年度晦日会が、8月27日にホテルグランビア大阪 19階アブで15名が集まり開催されました。懇談の後、榊本氏から「西日本大地震の危険が高まっている」とのパソコンプレゼンがあり、熱心に視聴しました。

本会は昨年8月最終土曜日に開催することになっています。平成24年は8月25日(土)17時から同場所で行います。

関心ある方は幹事

川合まで。



平成2年卒 同窓会のご案内

平成2年卒同窓会を以下の要領で開催します。是非多数ご参加下さい。詳細は京機会HPをご確認下さい。

日時:平成23年12月10日(土) 18:00～

場所:京都大学楽友会館

発起人:植松美彦、川那辺洋、後藤誠治、畑 善裕、琵琶志朗、増田 新、松原繁夫、水山 元

第2回島研&小寺研同窓会

平成24年3月24日(土)に同窓会を開催いたします。ご卒業生はじめ関係者の方々には是非ご参加ください。《研究報告会会場》

京都大学 工学部物理系校舎(216号室)

《ポスターセッション会場》

京都大学 工学部物理系校舎(214・215号室)

《交流会会場》聖護院御殿荘

●詳細は小寺研HPにてご確認ください。

<http://www.ksys.me.kyoto-u.ac.jp/>

京機会ニュース記事投稿のお願い

会員のページの原稿字数は150字以内(厳守)をお願いいたします。紙面の都合により事務局にて文章を省略させていただくことがあります。また、お送りいただいた写真は返却いたしません。ご了承ください。画像ファイルも可能です。

次号(2012春号No. 30)の締切は12月末日です。

編集担当:蓮尾昌裕、富田直秀、小森雅晴、段 智子、中尾美江(第二世紀事業会)